

■ 目標値未達成の要因について

法人名	株式会社 大阪国際会議場
-----	--------------

〔1〕

成果測定指標	単位	R 6 年度目標値	R 6 年度実績値	目標値との差
国際会議の開催件数	件	60	53	△ 7

未達成の要因				要因分析（要因と考える根拠）					要因分析を踏まえた今後の対応	
①	当該年度中に受注から開催に至る国際会議の開催件数が伸び悩んだこと			令和 6 年度の目標設定時において、既に成約済みの国際会議50件に加え、残りの10件は、当該年度中に受注から開催に至る国際会議で埋めるという目標であった。しかしながら、実績としては当該年度中に受注から開催に至る国際会議は 4 件にとどまり、また開催予定であった国際会議のキャンセルが 1 件あり、結果として目標達成することができなかった。					➡ 2025年大阪・関西万博に関連して開催される国際会議を誘致すること、また、万博を契機として、国内・海外のMICE関係者とのネットワーク形成を進めることなどにより、当該年度中に受注から開催に至る国際会議の誘致を図っていく。 加えて、国際会議の開催は、主催団体への提案から開催まで通常 3 年から 4 年の期間が必要となるため、以下の営業活動を強化する ・医学系学術会議については、キーパーソンとのネットワークを継続し、自然科学系学術会議については、開催動向を分析し、ターゲットを選定した上で効率的な営業活動を実施する。 ・自然科学系のターゲットとしては、「情報」「機械工学」「化学」等を優先し、新たに、関西圏の公立大学等にも営業を行っていく。 また、キャンセルが発生しないよう、開催まで定期的にフォローする。	
	関連項目名	当該年度中に受注から開催に至る国際会議の開催件数	単位	件	R6当初想定値	10	R6実績値	4		

■ 目標値未達成の要因について

法人名 株式会社 大阪国際会議場

〔2〕

成果測定指標	単位	R 6 年度目標値	R 6 年度実績値	目標値との差
主要3施設稼働率 (10階会議室、メインホール、イベントホール) (使用した日数÷主要 3 施設すべてを使用した場合の日数)	%	83.1	77.0	△ 6.1

未達成の要因					要因分析（要因と考える根拠）					要因分析を踏まえた今後の対応		
①	仮予約後、本予約に至らずにキャンセルされた催事が複数見られたことによる。				・イベントホールにあっては、例えば、毎年12月に開催されていた大型展示会の仮予約が、東京開催のみとなった結果、直前の9月にキャンセルとなり、メインホールにあっては、ダンス系競技の全国大会が仮予約後キャンセルとなるなど、仮予約後、本予約に至らず顧客都合によるキャンセルとなった後に、他の催事で埋めることができなかったことによる。						 ・仮予約時に、開催の確度、キャンセルの可能性を確認するとともに、仮予約後もフォローする。 ・キャンセルの可能性が高まった場合には、速やかに新たな営業をかけるようにする。	
	関連項目名	主要3施設稼働率	単位	%	R6当初想定値	－	R6実績値	△ 16.3	差	△ 16.3		
②	台風の影響等によるキャンセル				・台風の影響等により、開催日の直前にキャンセルとなり、他の催事を充てることができなかった。						 ・台風の影響等によるキャンセルは、予測できないものであり、キャンセルの時期も直前に決まるため、他の催事をすぐに充てることもできない。毎年、一定数発生する可能性を前提に、稼働率を上げることができるように、営業に努める。	
	関連項目名	主要3施設稼働率	単位	%	R6当初想定値	－	R6実績値	△ 0.4	差	△ 0.4		